# 第 101 回紫友まち歩き

## 早春を探して郊外をゆっくり散策
## ～西高島平から下赤塚～

2024 年になって初めての第 101 回紫友まち歩きが、寒いが晴天の中、実施されました。今回は地元の 3 名が案内人となり、3 つのコースに分かれて楽しむことになりました。

日時： 2024 年 3 月 2 日(土)
集合時間 ： 14 時
集合場所：都営三田線西高島平改札口
参加者：まち歩き：18 名
案内人：小林(俊)016A、今西 018F、横山 018G
懇親会：東上線下赤塚駅「はなの舞」
懇親会参加者：14 名
歩いた歩数：約 10800 歩

＜まち歩き＞：
■まち歩き行程
三田線西高島平改札口→板橋区立郷土資料館→
以下を 3 つの班ⓐ ⓑ ⓒで：
板橋区立美術館ⓐ、赤塚城址ⓑ、不動の滝ⓐⓑⓒ、乗蓮寺ⓑⓒ、
赤塚植物園で一緒になり、以降：
赤塚植物園→松月院→呉服屋 白瀧→懇親会

＜スタート＞
写真を見ながら楽しんでください。

① 三田線西高島平改札口：
14 時 10 分に最後の人が参加し、まち歩き開始。高島台の名前が 3 つも続く（高島平、新高島平、西高島平）ためか、降りる駅を間違え、タクシーで駆けつける人もいた。

② 板橋区立郷土資料館：
首都高 5 号線の横道を板橋区立赤塚溜池公園に向かって歩いて行く。公園には白い梅の花が咲き始めている。板橋十景の説明板があった。

今回、赤塚溜池公園、松月院、乗蓮寺の三景を楽しむ。

溜池では数人が釣りをしているが、釣れているようには見えない。何が釣れるのか。郷土資料館の見学開始。特別展「いたばしの富士山信仰ー富士講用具と旅した人びとー」が開催されていた。ここで 3 つの班に別れて見学場所にそれぞれ向かう。その前に、集合写真を撮る。

### ③ 板橋区立美術館ⓐ：

ここは有料での見学。本日 3 月 2 日から展覧会「『シュルレアリスム宣言』100 年 シュルレアリスムと日本」が開催されていた。

### ④ 赤塚城址ⓑ：

典型的な平山城で、高台の原っぱには記念碑や本丸跡がわずかに残っているだけでした。

### ⑤ 不動の滝ⓐ ⓑ ⓒ：

普通に思い浮かべる滝とは全く異なり、道路脇のわずかに滴るような滝でした。

### ⑥ 乗蓮寺ⓑ ⓒ：

600 年の歴史をもち、徳川将軍「お鷹狩り」のお休み処となっていた寺だそう。青銅製高さ 13 メートルの大きい大仏、東京大仏がありました。

境内にある石造物のいくつかは、現在の豊島区駒込付近に所在していた津藩藤堂家・江戸下屋敷（染井屋敷）に

置かれていたもので、愛嬌のある石像がいくつかあった。なんでも耐えるがまんの鬼や三途の川の奪衣婆（だつえば）などがあった。

## ⑦ 赤塚植物園：

小規模な植物園で、3 月初めは花が少なく、梅や水仙の花が少し咲いていた。

ここに 3 つの班の人が集まってきた。少し早いが松月院に向かう。

## ⑧ 松月院：

境内には天保 12 年（1841）徳丸ヶ原で西洋式砲術の調練を行った高島秋帆を顕彰し、大正 11 年（1922）に建立された顕彰碑がある。ここでも記念写真を撮る。懇親会場のある下赤塚に向かっていく。

## ⑨ 呉服屋　白瀧

国道 245 号線添いの白瀧のショーウインドウ前で案内人が説明を始める。

3 月で忙しく中の見学はできない、将棋のイベント会場でもある、藤井聡太氏は白滝で着物を新調しているとか、・・・。

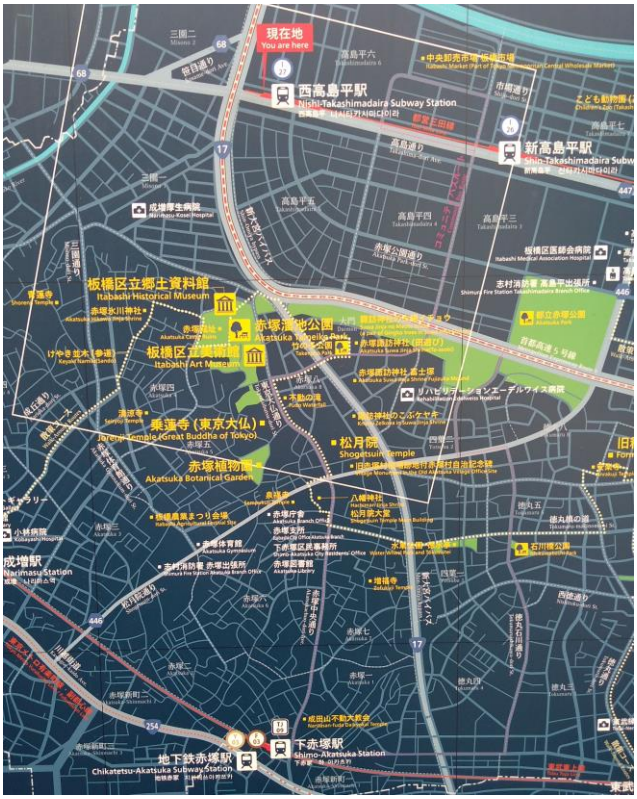
白瀧前の国道添いの道は、旧川越街道だという。

## ⑩ 懇親会

この懇親会場では飲食しながら、たばこが吸えるという。たばこに弱い人がいて参加をやめる。14 名で懇親を始める。柴田まち歩き世話人が、第1回、第2回のまち歩きを実施してくれた川口さんの訃報に対する献杯をしました。又、柴田さんからは、「紫友まち歩き 100 回記念誌」の配付、次回以降のまち歩きの候補についての説明もありました。皆さん、積極的に提案していきましょう。

懇親会は 2 時間ほどですが、歳にもめげずに良く飲みました。

今回のまち歩きで歩いた地図。




区名「板橋」の由来：郷土資料館解説シートから：

「板（イタ）」は崖や河岸の事を指し、「橋（ハシ）」は「端（ハシ）」をさすとされています。これに従うと、板橋が武蔵野台地の端に位置する地形と合致することから、これを“板橋”の由来と見ることもできます。

以上